



シリーズ
タンチョウ
Vol. 352

鶴居村教育委員会社会教育課社会教育係
タンチョウ自然分野担当

音成 邦仁

☎64-2050 / FAX64-2900

鶴居 タンチョウ 検索

タンチョウを追い払う（食害防止対策のご報告）

春先のデントコーン畑（以降、畑）では、タンチョウによる、まいたばかりの種や出たばかりの芽の“食害”が起こります。鶴居村野生鳥獣被害対策協議会では、特に多くの1～3歳の若鳥が居残る下久著呂地区と下雪裡地区でタンチョウを畑から追い出す「追い払い活動」を実施しています。“タンチョウと地域との共生”にはこのような活動も重要です。

食害防止は5月中旬から約1ヶ月間が勝負です。まいた種をビニールシートで覆う、いわゆるマルチ畑では、播種直後から種がまかれているあたりをビニールシートの上から執拗に突き、種をほじくり出します。直播の畑では、発芽するまでは種のありかがわからないので、主に発芽後に芽を引き抜き、根についた種を食べます。マルチ畑も直播の畑も発芽後2週間までが要注意です。今年度は、下久著呂地区では最多40羽、下雪裡地区では同25羽の生息が確認されました。

今年度の追い払いには趣旨にご賛同いただいた14名の地域住民に協力いただくとともに、食害の発生しやすい時期を短くするため、農家さんと相談し、播種の順番を配慮していただきました。また、ドローンや小道具を活用し、その効果も見てみました。小道具では、レジャーシートを頭上で振り回し、バサバサと音を立てながら近づくと、手ぶらで近づくよりは早めに飛び去ってくれる感触を得ました。一方でドローンの接近は、嫌がりはするもののなかなか飛び去ってくれない印象でした。このほか、畑への侵入を防ごうと、畑内に防鳥用のきらきら光るテープを張り巡らせたり、自作のかかしを立てたりといろいろな防鳥器具を設置しました。こちらは予想以上の効果を発揮し、畑内への飛来が激減しました。それでも、下久著呂地区では延べ1,226羽を、下雪裡地区では延べ120羽の追い払いを要しました。

食害防止対策は、かれこれ30年以上続けられていますが、広大な畑で食害をなくすことは極めて困難なことです。来年も今年と同じような結果になるとは限りません。来年度もまた趣旨にご賛同いただけるみなさんと協力して、少しでも食害を軽減できるよう頭と身体を使いたいと思います。



レジャーシートを振り回して追い払う



自作のかかし